

特別公開6

奈良市指定文化財

森家住宅

(もりけじゅうたく)



①歴史・概要

明治20年代(1887-96)頃、南隣の細川家の隠居所として建てられました。

正面の丸太格子は奈良の町家の特色のひとつ。「奈良格子」とも呼ばれます。内部は、青竹色の色土(いろつつ)の壁、網代(あじろ)天井の茶室、床柱(とこばしら)等への皮付丸太の使用など、随所に数寄屋(すきや)趣味が見られるのが特徴です。

平成23年(2011)に半解体修理工事が竣工し、丸太格子や通り土間が復原されるなど、ほぼ建築当初の姿がよみがえりました。

②見どころ

1) 趣味性の高い豊かな空間

この建物は隠居所として建てられました。金閣や銀閣も足利将軍の隠居所です。こうした施設は、施主の好みや時代の流行を反映し、趣味性の高い空間となります。海外含め、文化財となっている例も多数あります。

この建物も、経済性や実用性優先では選択しえない工法により、豊かな空間を作り出している点に、大きな特徴があります。

昭和12年(1937)に森家の本宅となってからも、その特徴はしっかり継承され、現在に至っています。



青い土壁: 実用性を考えれば、土壁より漆喰壁が有利です。経済性を考えれば、青い壁でなく普通の土壁でよいはずです。
ミセノマ: 茶室として使うため、手間とコストの掛かる網代天井とし、押入には収納を犠牲にして水屋を設けています。

複雑な屋根: 背面側の屋根は入母屋造になっています。形が複雑になり雨漏りしやすくなること、隅が重くなり軒が垂れやすくなることなどを考えると、切妻造の方が有利ですが、庭からの景観が優先されています。



2) 地形を生かす工夫

奈良町は意外に坂が多く、森家の敷地も西側がかなり低くなっています。このため、座敷からは、生駒山の素晴らしい眺望を楽しめたと思われます。

建物の内部では、勾配がある敷地ならではの施工がなされています。

3) 細川家と森家が並ぶ景観

和ろうそくの仕事と、家族の主要な生活の場として、実用本位の細川家住宅(奈良県指定文化財・19世紀前期・内部非公開)。随所に趣向を凝らした、遊び心あふれる森家住宅。建物の性格は対照的です。そんなところに、外観からだけではわからない、奈良の町家の奥深さが感じられます。